

書評

新人薬剤師のみならず中堅・ベテランにも薦めたい スタンダードマニュアル

〔評者〕 乾 賢一
京都薬科大学学長

橋田 亨, 西岡 弘晶(編)
『薬剤師レジデントマニュアル』

薬学教育改革による6年制薬剤師の誕生、診療報酬改定に伴う「病棟薬剤業務実施加算」の実現など、今、薬剤師にかかわる新しい話題が医療現場で注目を集めている。新卒薬剤師の教育は、これまで大学病院薬剤部の研修制度をはじめとして、各施設独自のカリキュラム、教材を用いて進められてきた。安全・安心の医療が求められる中で、医薬品の適正使用、病棟薬剤業務など、新しい薬剤業務を推進するために、新人薬剤師のトレーニングはさまざまな工夫を凝らしながら行われてきたが、ここ数年、医師になった薬剤師レジデント制度が普及し始めている。薬剤師研修の教材は、これまで各施設において適宜作成されており、書籍として公開されているものはなかった。

このたび刊行された『薬剤師レジデントマニュアル』は、神戸市立医療センター中央市民病院の新人薬剤師研修プログラムを基本として、急性期医療の最前線で活躍している薬剤師や総合診療科医師が中心となって分担執筆されたものであり、待望の新卒薬剤師の研修マニュアルとして見事にまとめられている。総論の部では、薬剤師の基本業務、薬物療法を理解するための基本知識、腎障害、肝障害、高齢者などスペシャルポピュレーションに対する薬物療法の注意点、臨床検査値の読み方、フィジカルアセスメント、薬剤管理指導/病棟業務の注意点、など薬剤師業務を実践する上で、身につけてもらいたい事項がまとめられている。さらに各論として15疾患領域別に、病態、患者の状態把握、標準的処方例、薬剤師による薬学的ケア、そして処方提案のポイントなど病棟薬剤師としての対応がコンパクトに解説されている。

2010年4月の医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」は、医師

などと協働して、薬剤の専門家である薬剤師が病棟業務や在宅医療業務において主体的に薬物療法に参画することを求めたものであるが、本書はまさにそれに相応しい知識・技能・態度を身につけた薬剤師を育成するためのマニュアルと言えよう。編集にあられた橋田亨薬剤部部長が、これまでの豊富な経験と実績を基盤にし、総合診療科の医師などと密接に連携して、これからの医療を見据えながら新人薬剤師教育のスタンダードマニュアルとして、本書を世に出されたことに最大限の賛辞を贈りたい。また、レジデントマニュアルシリーズの1つに本書を加えられた出版社の先見性にも注目したい。

本書は、これからの新しい医療を担う若い病院薬剤師や保険薬局薬剤師はもとより、中堅・ベテランの薬剤師にも、座右の書として広く活用されるであろう。



B6変 頁376 2013年
定価 3,570円(本体 3,400円+税 5%)
ISBN978-4-260-01756-5 医学書院刊